

山県市女性のワークライフスタイル応援事業【岐阜県山県市】

地域の実情と課題

- ・山県市の人口は毎年減少傾向にあり(平成22年)、特に就業、結婚等による若い世代の転出が大きな課題となっている。
- ・また、山県市の産業基盤の約3割を占める製造業の製品出荷額及び従業員数はここ数年増加傾向にあり、地元企業においては人口減少に伴う人材確保(労働力維持)が喫緊の課題となっている。
- ・そこで、平成27年度より、市内の子育て中の女性と、地元企業との就労マッチングを図るため、インターンシップ事業を実施している。事業実施の中で、地元で就業できる企業の認知度不足や、女性の市外就職率が高いことがわかり、地元企業のPRや子育て期女性の再就職を後押しするため、インターンシップの拡大や、地元でいきいきと働ける形があることを提示していく必要がある。

事業の特徴

- ・平成27年度に実施したインターンシップの結果では、製造業を中心とする地元企業は深刻な人手不足から、男女関係なく人手を必要としていることがわかった。また、子育て期の女性も再就職の意思を持っていないが地元の製造業等は選択肢に入っていなかったり、家族の反対で就職を躊躇する事例がみられた。
- ・これらのことから、企業に向けては女性の雇用体験の機会をより一層確保し、女性に向けては、より参加しやすいインターンシップの実施と、さまざまな職業に関するモデルケースの紹介、また女性が働くことへの理解を促進する啓発を目指す。
- 【主婦インターンシップ】・企業の女性雇用促進 ・女性の再就職のきっかけづくり
- 【ロールモデル紹介冊子の作成、座談会】・女性に向けたさまざまな働くモデルの紹介
・女性の就労についての啓発
- 【女性活躍に関する市民意識調査】・平成29年3月策定の女性活躍推進計画の実施に向けた基礎データと「生の声」の収集

事業の効果

- ・インターンシップは受け入れ企業6社、体験人数8人が参加し、そのうち4社5人が就職につながるなど、マッチングについて高い需要を示す結果となった。
- 体験後に実施したヒアリング、アンケートでも概ね好評であった。ロールモデル紹介冊子の作成配布とともに、近接する都市部へ労働者が流れる当市において、「地元の製造や福祉等の企業で働く」という新しい選択肢を示すことができた。
- ・女性活躍に関する市民意識調査では、市内の18歳～59歳までの女性1000人を対象として実施したところ、320人の回答があった。中でも自由回答が72件にのぼり、さまざまなライフステージにある女性の「生の声」を聞くことができた。

項目	目標値	成果
主婦インターンシップ	体験者7人以上 地元就職マッチング率20%以上	体験者8人 地元就職マッチング率62.5%

目的・目標

- ・本事業は山県市内での就労マッチングを目的に、近隣市町村在住者も含めたインターンシップ事業の実施に加え、「地元で活躍する女性の情報発信」を図ることにより、市内企業への就職促進を図る。
- ・また、山県市においては待機児童はゼロであり、NPOと連携した様々な保育サポートサービスも県内でもトップクラスであることから、就労促進の受け皿となる保育サービスも合わせてPRすることにより、『仕事も子育ても両立できる山県市！』を目指す。

項目	目標値	成果
主婦インターンシップ	体験者7人以上 地元就職マッチング率20%以上	体験者8人 地元就職マッチング率62.5%

連携団体

- ・【行政】 山県市(広報、子育て支援、学校教育、商工担当課)
- ・【商工関係】 山県市商工会
- ・【子育て】 保育園、幼稚園、小中学校、子育て支援施設、子育てNPO法人

今後の課題

- ・インターンシップ事業では、製造業を中心に企業側から大きな需要があったが、就職意思のある女性の多くはすでに就職しており、体験者の確保に苦労した。
 - ・家庭の反対でインターンシップを断念した女性も複数おり、ニーズ調査でも多く挙げられた「性別役割分担意識」の解消に向けた多様な働き方の啓発を行う必要がある。
 - ・受け入れを行った企業の中でも正職員として雇用することも想定した事業所は一部にとどまっており、女性の正規雇用の利点や先進事例の紹介等を行う必要がある。
 - ・女性活躍に関する市民意識調査による基礎データやそれを活用した有識者による分析、そして自由回答など多くの情報が得られた。
- 平成29年度から第3次山県市男女共同参画プラン及び女性活躍推進計画の計画期間が始まるため、この調査で得られたデータを施策に活かせるよう体制を整えなければならない。

事業の概要

女性就職支援事業(主婦インターンシップ)

市内に所在する企業と、市内及び市周辺在住の子育て期の女性を対象に、有給インターンシップを実施。再就職に悩む女性が気軽に体験できるよう、体験期間の短いトライアル型とした。また、受入企業にも体験者と同じく1時間500円を奨励金として支給することで、企業側も受け入れしやすい体制とした。実施にあたっては、厚生労働省が進めている「ジョブカード」の活用や事前ヒアリングを通して、キャリアについての意向などを確認し、円滑にマッチングが行えるようにした。

結果としては、受入企業6社・体験者8人の中で4社に5人が就職し、マッチング率は62.5%となった。



輝く女性ロールモデル紹介冊子の作成及び宣伝(座談会含む)

■輝く女性ロールモデル紹介冊子の作成

人材不足に悩む市内の企業には女性採用のモデルとして、就職を考えている女性には、多様な分野で自己実現を図っているモデルとなるよう、輝く女性ロールモデルの紹介冊子を作成した。

介護福祉の事業所に子育てしながら再就職した女性や、製造系の企業で独創的な製品を開発している女性、平均年齢65歳を超える女性たちで営まれている過疎地域の農家レストランなど、さまざまな形で能力を発揮し、いきいきと暮らす女性を紹介した。

また、女性が社会のさまざまな分野で活躍するためには男性の生き方の多様性も重要であることから、市内で農業と地域おこしに携わる男性を「半農半X」の事例として取り上げ、性別に関わりなく活躍しているモデルケースを発信した。

さらに、全国先進地の事例やジョブカードの紹介などもあわせて掲載することで、企業に向けても有益となる構成としている。



■冊子の配布とお披露目座談会の開催

当冊子は、市内の公共施設や子育て支援施設、保育園、商工会等へ配布すると共に、県や隣接自治体の図書館等へも設置を依頼し、中山間地域における女性の活躍のモデルケースを市内外に発信した。

また、当冊子のお披露目の場として、座談会を開催した。前半は、冊子の紹介のほか、「女性活躍に関する市民意識調査」で分析等に携わっていただいた有識者の方から山県市における現状と展望についてお話しいただいた。

後半の座談会では、子育てNPO法人や福祉法人、市自治会連合会の各分野の方をパネリストに、来場者と、山県市の女性活躍推進にあたって、身近な問題や要望などについて意見を交わした。

女性活躍に関する市民意識調査

山県市は、平成29年度から5年間を計画年度とする「第3次山県市男女共同参画プラン」及び「女性活躍推進計画」の策定に向けて、今後これらの計画に基づいた施策を効果的に実施する基礎データとするために、女性活躍に関する市民意識調査を実施した。

18歳から59歳までの、市内在住の女性1,000人を対象として、現在の就労環境や、就職に関する意識、課題についてアンケートを行い、320人からの回答を得た。

収集したデータを元に、NPO法人参画プラネット代表理事の渋谷典子氏をはじめとする、男女共同参画や政策形成の有識者による分析を行い、女性の活躍に関する市の施策の方向性について、提言書をいただいた。